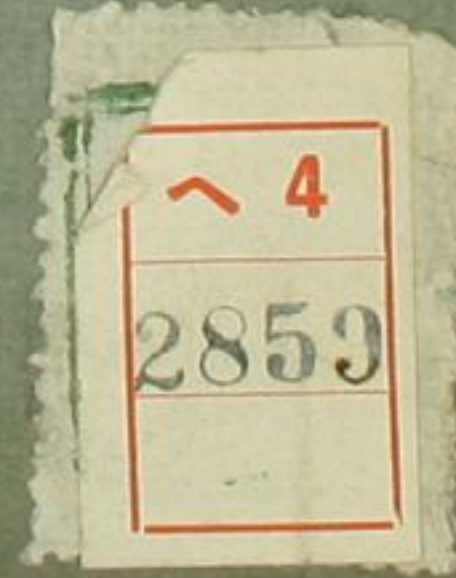


大正續足記集後年



利4
8859

太氣綾足家集拔萃

大宮のこせのり霍れ鳴き成園て

いさうこれ天ふく心と見一つと鳴そのおれうつせぬなりと

題——らあ

まうこれバを腰をびく小山田の牆つをあらううがひん乃た久
おさこのはさかおせびていつもうけぞなくあるとささる日り
みどらうふこらひすれむせをうか椎菜つむてふおもむすのバ
りぎらひれタさうくれむ小山田に蛙かくなり何来あるぬ——や
春はまきあつこの——榎わく水う芦の若な人おひいでうきり
天つちの神のば——かし春なれむ所め地のまはうすすみとびく

るるも出す妻まどとてけりつてくつさぬなる様ぞやめる瓦
をいりうてはしむすも降やといふるもれはきくを
こもるぬれもめとみなづも咲ゆめとこれといふるも
うけあむをさるるさうりうの雪れま士り降とよどみれば
不二もみりてをつくどの峯やこゝるもみれば峰りまえさ
久望のちるまといつふれもいりぬに

音やれぬぬいづも黄鳥れいづれやむはさるるうてふ
のや高しやつとるさはいさ像のちるりちるふりかちるむ
右大將れ君やどれ山幸は三指もふ圖をさる上はたか
幸^{カッラ}た^ラり真章^{ミンショウ}かりやまやの振る備^ホ序つりぬるものなりは
壺^ハ

何うぬれつづ山は楊々りし市はめちちさるやどするものも
何うぬれつづ山は楊々りし市はめちちさるやどするものも
黒ははるむちつづぬにれきし緒るきれれ仁田^{ニタ}れ文^{フミ}雄
やちるれやちるきしつづぬにれきし緒るきれれ仁田^{ニタ}れ文^{フミ}雄
かふもれをつなづぬにれきし緒るきれれ仁田^{ニタ}れ文^{フミ}雄

大井川れぬまきりくを見えて

咲いりづも何うで散るむちちさるやどするものも
溪みつちちさるふ花やめめは風りもさるふものも
ちちいり春まきりく何うにり山よりけちのはなもちちさる

高皇寺の老木のさるを見えて

りきうごすけい田村ももろぞいそいそやみとをいぬめりぬのそ
畝この山田水となきう江うきふそふれちみこのころ
有尚れ妻をかりて年へうけりし世は書おくる形見の
めうてふりしむ

星これ月に行とも山うのうでやいぬぬぞかな
ふやのふれおこるぬおーもてふもの中津のきり
う奉りくるふもふいふいふいふいふいふいふ

梓弓おーくつゝるみふれもふーのはるやねほめる
又しきくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きふりおすかきふくくくくくくくくくくくくくく

渡月橋をいぬは

ぬむむのうらるる月のはううきうくくくくくくく

高瀬川みく

夕れれも秋風ふさふの舟をてふ水のはうくをいぬぬ
秋風のやちりふはうくくくくくくくくくくくく

三野村山中をうて雪うけりし

秋風のちむうくくくくくくくくくくくくくく
とほらうかきうくくくくくくくくくくくくく
時ぞくく秋も黄葉もちりくくくくくくくくくく
くくくく

大はらやをほろいれやるはまふぬけしーらふみかへんていふ

高雄小て

むろをのねささぬけしーらふみかへんていふ

小野小て

はやさすしるやろ杜力者うが小野のふみぢさるいーらふ

やーれ暮

むやさくるやろんてふたつはさるーまついたさるはのさる

春ねえろ

春はれども風さる松の枝うぬれはさるさるふりたふも

豊前中津の君めらいーふをぬて奉れるる

天つちろいさるー時ふりかさふ二神はる浮はーの上ーいさ

まーいは形乃天のとむさ成はーおろしはさる落へさるさる

おのさるーま成なせーさるーは國中の佛柱とらふさるいて是

いさの山成もさるー稲むーろ川をもさるーちやさる神のみ

ふささるやつさるーみばさるさる天の下成さるたさる民さ

成さるさるいぬさる神のさる落さるはさるんこのゆめ

はつはらいささるいはさるさるさるいぬさる神のいぬさる

おぬちのふめのさるさるさるさるさるさる

よささるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさる

うらなはらうしやまぞはけつこてあやれど

防人守る^ほぬしやけとそ東へゆりむふ城還りて

大君のまゐりこころみ島づくなく妻の江戸城あうりりし
ちこしはさね花の咲はけりさうはとさすそいふたてさ
ぬますはるさる城ありあがきけとやこつと到来ま
しぬ瓢形の都まはれどあうさう大城のわねもさ
あもよものつるさうとやつ法もさげ太刀もやさ
しうおりしものふりぬけさうね刺しぬぬも珠
れ板門も緒しもいぢをり伏さけむいす君うしあれ
る雄おもみはもめてすをぬ根のけりもみの秋はぬ

袂ぬる妹がけりるすきまひもさう雪月はそのすくさ
なす赤裳もみずき花のけりなとらぬいぬおめて
あうす大はうは酒ゆりうえ伏をささすはいてさ
もおはけん時ぞ故郷をおとほしりやうすき月日の
ふいび衣いものけりさうわいしんぬもさうしぬい
もはらうしうさうおぬじき都へのあ家のまのおみのえ
りり見うめへ往りやうも

ぬでやうしすくのさふぬる雪城標うりけり君とさ
五十にあり三つの驛う野千玉のさま行むけてややう
さう老もはけりさうむもさうさうてきさうい
散るは

うづもちうそのれさう椿乃葉いもれさうもの如
花いもはやくもれる昔乃根のせいさうはえあめうい
ものもさうおいらさうなるたぢれあめおのさうさ
もさうたぢ花れさうさうさうさうさうさうさう
華いもさうおいらさうなるたぢれあめおのさうさ
いれさうさうおいらさうなるたぢれあめおのさうさ
んはさうさうさう

かくさうれる様をもとめさうさうさうさうさう
年のいもはやくもれる昔乃根のせいさうはえあめうい
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

三千さうのさうさうさうさうさうさうさうさう
蕪^ア股^シ堂^ヤを称^タてさう

いもはやくもれる昔乃根のせいさうはえあめうい
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
すかみ見るはさうさうさうさうさうさうさう

中津乃君はちのさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

古代のまねをまねる

あつたまねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

東の方ほいあつたまね

いひまねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

まねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

松契^し延^{えん}齡^{れい}

千やせやふくやとめんを人松もせうなるまねを

きり^{キリ}ちやと侍前の國へあつたまねを

ちや浪の珠^{たま}もせうなるまねを神もせうなるまねを

壽^{しゅ}鶴^{かく}祝^{しゅ}

つゝたる松もせうなるまねを千やせやふくやとめんを

能保^{のう}世^よ

いひまねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

たつたまねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

坂^{さか}のまねのまねをまねるまねのまねをまねる

あややと鐸^{たつ}鹿^か乃^の開^{ひら}くまねのまねをまねるまねのまねをまねる

暗^{くら}いのまね

あつたまねのまねをまねるまねのまねをまねるまねのまねをまねる

橘^{たちばな}の枝^{えだ}直^{ただ}つてものまねのまねをまねるまねのまねをまねる

よちやとまね

なす川ぞやの川にゆきちし妻はもと人の朝川になつて
のしほふへいふにけりわかれど橋守ももろもろ
道ちのまもるゝもなかりしものなりけり人のい
そのあはれいふにけりわかれど人の太刀のしほやめ
ねど朝ふりのはれえりけりぬきものなりけり衣た
りやとそちのそちいふにけりわかれど人のいふに
よの中ふりし殿にけりわかれど人のいふにけりわ
や灌ぐんもなかりしものなりけり玉乃緒のいふに
水もつたもなかりしものなりけりわかれど人のい

川の二草がらうしりしものなりけりわかれど人のい

うつたみし妻はもと人の朝川になつて
小なやし氏の家やいふにけりわかれど人のい
ふにけりわかれど人のいふにけりわかれど人のい

沖つちももも鳥いふにけりわかれど人のい
頃も山松のちりしものなりけりわかれど人のい
しめももも鳥いふにけりわかれど人のい
降そのみきもも鳥いふにけりわかれど人のい
おくももも鳥いふにけりわかれど人のい
のぐももも鳥いふにけりわかれど人のい
そいふにけりわかれど人のい

ちうの花さきなる山雲のやまはくみすみ金ふく

沼月

あま江の沼の類おそれる月ひきはくちりきり

寄 遙 恋

まきれはむをうける花うさしゆまぞたうやぐりおれる

後 葉 浪 雨

くふさぎの^きとみぢもこの頃の^きそれのぬくさつりもより

む 白

むおとろくふ春べとちうよりうやもふとむふあかん

尋 紅 葉

流川うつちるるそらんくみねのおもふなりつりぬ

名 所 沼

上もせのうねの沼の^きまうあいはうつかういのしらぬ

竹 霰

あれうつ音はあらうさうひてはちやいんをなる^きなり

暮 秋 夜 相

長月のちうきとすうぬく風のほろ^きさみーとそ^きい^きう

寄 海 述 懷

いぢなう^き海^きを^き我^きは^きす^きし^きん^きよ^きう^きさ^きば^きの^きた^きて^きは^きい^き

寄 石 恋

水々ふりうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

路やう崔

まぢれど道のくまびらやう崔はうり往うとまぢれたのく

故宅五月る

来りりれいやうふりうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

早春川

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

ふり月

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

烏石ぬーむあつとみるわれやうゑなみ

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

伏見乃月る願

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

やうる月

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

冷泉入道乃月る願

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

冬懐旧

あつとみるわれやうゑはむあつとみるわれやうゑなみ

いそよのば人をこゝろいす家るるにおくよきより蒸被かきあふ
ねんとさきつふ姉やいふと枕ひびるるれねは玉のは
むさよすら成魔^{カク}ものいふこのあそんくくくもききる國と
人となふ姉もいふをちりーらふいふちてやき今そきや
都べしかくそきやあふのちをちあふいふやなひいてめい
次のちりーたふある

ちこそやう——ちこそきせの取ちとやうの雷カミナリ籠かごううとふくやうい
 め——めうい腹はら子こ玉たまのうはわけやうにやうなるを——いふ
 す家つやうのうもきこえず朝あさのうす朝あさのまうい——つひに
 赤あかも赤あかなりて茜あざすす白しろ晝ひるうとるれとえんすべのうてい

ねえいひいひいおちが
 おさむて東乃かに引ひ
 らるる袖うち拂ひそが
 入るるやのほろをみつ
 けぬる日子のちてて
 ちば見るるうちきえを
 けぬるも日のめとらん
 ば朝をのちもこつち
 ちるるやふいけぬる
 乃月やいそくういそ
 くかはりる日すこや
 草はくくび行人を見
 づてやうやは

百々事よふにわねどちやうとろをばいなんとおぢうひつ
 穀^カ種^キをいれそよめ

さへきしむるやれい向ふ花をよめ我のこ霞ふる春はら
うりこはぐ父と母とといふくわうその婦といつて校中萩の古

枝ぐいもちてゆき果るすみう定めくそや甲よりいひけりやう朝
よりふしそりうりさう母の汝はもぐらけが父も油をはぐみひ
うつむゆの葉はうころるべ雁もみくも幸男すも現
てあり一は真茶うちすこが見やて父母をみいさけるひちを
いちを家ももちきそ家つるけがうちやう果なすひ子
あひさうかういもいもあつてあつてあつてあつてあつてあ
のみうちもいすはくそ母もあつてあつてあつてあつてあ
らういひのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
すもいもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
うりて三栗乃中もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

うみなりひ庭へくかきあつてあつてあつてあつてあつてあ
べもむがはいねをえあつてあつてあつてあつてあつてあ
乃命りつていけうちもあつてあつてあつてあつてあつてあ
うつゆのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
しらあくたのもはうちもあつてあつてあつてあつてあつてあ
たる日のうちもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
もくすまんうちもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

雉が言ふこと

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

まく 澳つゝめくれもくしうくぬひうなる 幸箭サツヤいそび
 うりむいふとぬれいふくきんくもあななく枝とるれ
 なるこちよなるそのくしうとくちやうにひめひてはなうり

わく山いづも何うむをいそそねをちうもすそそおれやとの就る

たーまの國^{くら}の星^{ほし}又^{また}来てこころの白^{しろ}い振^{ふる}りる山^{やま}とて
 綿^{わた}津^つ之^の神^{かみ}乃^{すなは}ちさす海^{うみ}いふなるみきてり其^{その}まのなる中^{なか}
 うもさるぬいのつらもはりきとてく唐^{から}をもさういふ波^{なみ}千^{せん}
 きちあへり常^{とこ}世^よとふ時^{とき}そらるふ其^{その}まぞちのみさく白^{しろ}金^{きん}
 ち玉^{たま}の枝^えさうえさうづら赤^{あか}よりないぬもむのくらなりといこ
 しく朝^{あさ}日^ひのあもや夕^{ゆふ}の日の照^てれるころちと時^{とき}くふふがふぬれ

とつちけもそをうとんと舟よその漕ち見れども時め舟
 ありやうと神風カンカゼよふよふやうい一舟のちんもつむとちへ人
 せういづれいづ耳ふさしおふと異コトぬ乃事う一あれ吹風乃
 おふやうもぬうと一をせは国クニと遠近シチコナうとふぬまに
 なす常世六うと一ちん行て一とて人か言のすといふ
 よいてぬい一とコレ但タレニなるはせよとて思せぬのふはるやとこぶ
 ふいはいをもてせ見れむ一うぞ何うなりありあふ山岩きうとぬ
 やうぶとかなつと一うとせう中城をぞもこはとせ往ういていつるも
 くれはうのぬそとてうもくきぬ一ろ金もたぬおひきてるるう中
 うチチりの百モトぬつとろいももやうつけとにやすとチきうリモをを

いほりの漕え船を秋の吹まひのそよみよ

日

夕づの夕をさる日ぐりの来てる森を秋づきふり

夕月

夕づの夕をさる日ぐりの来てる森を秋づきふり

むし

夕づの夕をさる日ぐりの来てる森を秋づきふり

山行して月をみる

いかりうといつ道なりあつていづかの月を見せしむ

舟をく行なをせむ

舟をく行なをせむ

舟をく

舟をく行なをせむ

秋風

舟をく行なをせむ

浪華は海より防人をおく

大君の舟をさる日ぐりの来てる森を秋づきふり

みづたぬるやなまや

木どものみの頃松むすびなりきりいふものゆき

まちなんちさなまや

咲をるちもいふゆきなりきりいふものゆき

秋

秋のせもふくふくぬはぶらな^{サキ}咲のちりやあまやしん

虫

さきもむくふくぬはぶらな^{サキ}咲のちりやあまやしん

秋山

むくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

浦島のり子

さきもむくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

大官

春はしもをふくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

さきもむくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

あすはむくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

ら日

天地もふくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

一

ふくふくのふてちりなる秋にふくのきりやあまやしん

鹿

うき世に——いふも事なきに川も流たなく山もよそ
ぬき玉の如くいふもこれぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
なりなり

鴻の巣の澤やでとありある

くはぐやのなまじりてをねて——ぬきぬきぬきぬきぬき
人の衣う山つちばなの植てゆりぬきぬき

山人うらら——ちんちんぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
母か月を失ふいふい——人は遠る

たつちの母なるはまも老るるぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
浅るが獄係うい——はく見しれぬ

まなかならちまのづかあるをうらなひぬきぬきぬきぬきぬきぬき
——まひ——緑葉はぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
みづるうい——ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
やういそのぬきのぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

今いたまひぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
あちやねぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
その来たるはぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
おとりの人にぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

稲むらうに詩のうきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
朝はよの山とてぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
朝ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

三秋

夏衣のうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
夕陽のうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
さくらば——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
秋のうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

更衣

花のうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

上家のうさぎ

ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

セク

ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ
ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

氷

ふさふさのうさぎ——たけのこも甲斐のうさぎもふさふさのうさぎにふさふさのうさぎ

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

その神事

いよりの一本のきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

そのきりぎりす

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

風

きりぎりすのうらうらとみねのきりぎりすのうらうらとみねのきりぎりす

虎

ある秋をふめり

秋はさな庭のちりりあつたむらさきとやうなる
いもやをいであるや秋はなほあつて愛するも
藤より氏の姫君松ふのちのちむらめりてよりめり
おくりまうてよめり

仇やういふそはつていふなやめし有となおがそは言のこほ
大はやをいふはなはつていふはなはつていふはなは
葉月のちの秋はつていふはつていふはつていふは
うのぬりてちのちのちのちのちのちのちのちのち

ふくちやあつていふはつていふはつていふはつていふは

夕方よりめりこふていふ

大いなる入はつていふはつていふはつていふはつていふは
宮路山

秋の秋はつていふはつていふはつていふはつていふは
荒虫のいふはつていふはつていふはつていふは

ういすていふはつていふはつていふはつていふはつていふは
いふはつていふはつていふはつていふはつていふは

降ちつていふはつていふはつていふはつていふはつていふは
又のいふはつていふはつていふはつていふはつていふは

時いふはつていふはつていふはつていふはつていふは

紅葉をさるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

月さむし

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

旅のうた

山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな
ち^チ妹^{イモ}児^コの本のるるちかき山^{ヤマ}祇^{ヅミ}のふかしのやまのうらな

佐め名のさく

すゝめえは岸ふたなるらんをーかゝるゑいゝらんしりゑいゝ
かゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー

かゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
はつらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
いゝらんをー

かゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
和布振地やふ唐言哉

言はるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー

從軍行

かゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
あゝはるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
いゝらんをー

かゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー
浪をうへるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー

草漸青

花をみづゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー

友山清水

あゝはるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをーかゝるゑいゝらんをー

夕朝

日々にしるしのしるしを——しらふとてさうさうしてふゆの月をさるる

曉おひさむ

おのゝとて思ひこむる朝をさうしてふゆの月をさるる

みさきのむ

おのゝとて思ひこむる朝をさうしてふゆの月をさるる

る中の卯花

おのゝとて思ひこむる朝をさうしてふゆの月をさるる

山上紅葉

おのゝとて思ひこむる朝をさうしてふゆの月をさるる

る中のう免

春よと妹ごうるる梅の木のけさのけさうりふちをうりふちえん

る中のう免

春よと妹ごうるる梅の木のけさのけさうりふちをうりふちえん

歳のとれ

春よと妹ごうるる梅の木のけさのけさうりふちをうりふちえん

る中のう免

春よと妹ごうるる梅の木のけさのけさうりふちをうりふちえん

る中のう免

春よと妹ごうるる梅の木のけさのけさうりふちをうりふちえん

る中のう免

サアのやのをと免塚を見て

いふ——のすまそほりらん原枕ふびやくこのちなるあやのちと
かりなづき空哉——みれど目といふこれとあり——ぐまの
峰よりちのち東り月さへぬその月もやうちおひ折き
——ぬきやう来ふぬつ——いづもやんたのいのちのまひなる松
の木のこゝろ——しもふぶくんとてうづみなるふもむつなや
ぬらんゆめもさむく——ゆく條のまのちやうはつういづづ
ち——もあつ栲のほろ白さ衣キデなてます——男のほれもきこり旅
人おれりてつ——くお——と泉のまのちとむらうひて
ち——づふゆ——や女せう朝にふり来ひつめる銭おびとやうまひ

[illegible]

りしうきろくを向ふやむかのどくつちきしちりして
おききなりてまついふひにかちのどくその礼^{うやまつ}をうやまついふえ
白きなりきえてりたるなりとれををきしう一家庭れいみは
そちるる三西の申ちるいそのををの場い今しもちりてはの世
はうつりてうきむのちるいあねどその場を見つしを
れむいしうおのほむ

おとうさん、はういゝわでけろくちのやまをよこしに
敷盛つての墓をとてよめ。

はのふの國のみちのふいふハをふこのとハ都をいふアハふ
と天のトちやハ免すのちぎの神の命ハいとけハあかし

すゝ城のしほは君さうきんや一宿の平の宮もたつふ
 ちよきとて頂テのものいふの若小宮様やうとなつて我
 もる大城をとりそぞの中は平の氏ねもの男ハ十人をも
 己江の籠をおろく軍兵ちあめがけし志願くおはせぬの
 成源の氏の伴の男子まのいふにいとむいふ夜のうらな
 るふ是れのと一宿の山おちくるころは霧りけなく焼太刀の
 うききりし切るあはた城の人かごものこられずといふを
 のきのころばふならすれた力をもちえかれかーやまもりまわ
 船をその海よりあつてもふつのおづむよく伴のをも舟より
 つもつぬと船おせりとおされてはーねやし大夫らよりぬきむの

[illegible]

ずと世の人のうらやまをうらやまにまじりてみよ

是の如くは、一宮の如くは、
 うの如くは、
 あづの如くは、
 名、
 来、
 と、
 百、
 成、

記をん白榜のしも哉もとのまわひにすられはみゆき
 見ゆきいふつうなれにたり人よとやうはやなら
 めけともこのち^{ウチ}ふれてぬえ玉の髪のみれて目もつす
 まとさけ日のあやうすもんと却つてさづひもありてはそ
 そも子まへつめ王塔の岩根ちがと聞えて此りみの何處
 あまなほころぎあやえなり人とすべくなすこころ
 うくわれ人たためますおもいつす頭うやしお尻へてう
 つといふうつづり又ら名のとけひつちよういづをいの
 けてり呪うぞ玉を一のにやりぬらん家を一のらむくえん
 とちうこそるばねもつけぬんとすれど夏虫の火入るがごとく

ありまやちたやいひつたて人よゝゝゝ民^ハなかりは
ゝゝゝちちひのまのぬありてゝゝゝなせのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの形見
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のちひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
母のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
詞ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

びりすりーつ都人うりおとせし玉釋りぬと
るくつやが¹²あそこの名をよぶおもはりあそりあそび
いはんすべせんすべあそいあそいあそいあそい
きこ奥柳つる人いその人

あぢのみちのぶとちりりある柳が中あそいあそい

寛政八年むはあ十日あそり田原稻生まうてあそ
こハも友柳山群安岐万口てふ人のもたさなりやる

